

足摺宇和海国立公園指定40周年記念シンポジウム

ともに守ろう！ともに活かそう！ 国立公園再発見！



日時：平成 25 年 1 月 12 日（土）13:00～16:45

場所：土佐清水市立市民文化会館くろしおホール（入場無料）

主催：土佐清水市、中国四国地方環境事務所

**後援：高知県、四万十市、宿毛市、大月町、愛媛県、宇和島市、西予市、松野町、鬼北町、愛南町、
高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、NHK高知放送局、
RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ**

**協賛：土佐清水市観光協会、宿毛市観光協会、大月町観光協会、竜串観光振興会、あしずり温泉協議会、
土佐清水市旅館組合、黒潮生物研究所、黒潮実感センター、竜串自然再生協議会**

足摺宇和海国立公園は、昭和 47 年に国立公園に指定され、今年度で指定 40 周年を迎えます。これを記念し、土佐清水市、中国四国地方環境事務所をはじめとする関係機関で指定 40 周年を記念したシンポジウムを開催することと致しました。シンポジウムでは足摺宇和海国立公園の現状や課題を見つめ、特徴や魅力を再発見し、今後どのように国立公園を管理しながら地域活性化を図っていくかなどについて、参加者の皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。

◇プログラム

・ 13:00 **オープニングイベント**「清水中学校音楽部による吹奏楽演奏」

・ 13:30 **開会**

主催者挨拶：杉村 章生（土佐清水市長）

来賓 挨拶：広田 一（参議院議員）

尾崎 正直（高知県知事）

岡林 守正（土佐清水市議会議長）

・ 13:45 **基調講演**「国立公園を考える～過去、現在、そして未来～」

桂川 裕樹（環境省自然環境局国立公園課長）

・ 14:30 **休憩**（15 分）

・ 14:45 **パネルディスカッション** 「国立公園再発見！」

パネリスト

神田 優（NPO 法人黒潮実感センター長）

竹葉 秀三（竜串観光汽船代表）

田村 卓実（一般社団法人あしずり温泉協議会長）

西尾 知照（愛南町立中浦小学校教頭）

吉村 博文（土佐清水市副市長）

進行役

小林 誠（土佐清水自然保護官事務所自然保護官）

・ 16:30 **閉会**

挨拶：水谷 知生（中国四国地方環境事務所長）

※敬称略

基調講演「国立公園を考える～過去、現在、そして未来～」

我が国の国立公園の歴史や現状、他国の国立公園の状況、将来に向けた課題など、「過去、現在、そして未来」について、自身の経験を踏まえながら講演します。

桂川 裕樹（かつらがわ ひろき）

環境省自然環境局国立公園課長

1959 年岐阜県生まれ。京都大学農学部卒業。1982 年に林野庁に入庁。九州森林管理局や林野庁国有林野部での勤務、JICA(独立行政法人国際協力機構)が進める住民参加型の森林保全・再生プロジェクトの担い手としてのアジア派遣を経て、2011 年より環境省自然環境局国立公園課長に就任、現職。地域の方々との協働による国立公園管理のあり方について検討を進め、三陸復興国立公園を通じて保護地域が復興に果たす役割を最大限に活かせるよう尽力すると同時に、日本の国立公園におけるより良い管理・運営に向けた取組を世界に向けて発信できるよう 2013 年に日本で開催予定のアジア国立公園会議の成功を目指す。



パネルディスカッション「国立公園再発見！」

パネリストがそれぞれの立場から足摺宇和海国立公園の魅力、課題、国立公園と地域活性化、今後の管理のあり方などについてディスカッションを行います。

パネリスト

神田 優（かんだ まさる）

NP0 法人黒潮実感センター センター長

1966 年高知県生まれ。高知大学農学部栽培漁業学科卒業後、東京大学海洋研究所で大学院博士課程修了。農学博士。専門は魚類生態学。現在、高知大学客員准教授。神戸大学非常勤講師を兼任。学生時代は釣りと高知県柏島・沖縄県座間味島でのダイビングガイドで生計を立てつつ学問に励む。潜水時間 7000 時間以上。四国の西南端、高知県大月町柏島に“島が丸ごと博物館”という構想のもと、海のフィールド・ミュージアムを作ろうと 1998 年に単身柏島に乗り込み、2002 年、NP0 法人黒潮実感センターを立ち上げる。現在センター長。環境教育、環境保全、地域おこしなどを手がける。島の自然と人の暮らしが両立する、持続可能な「里海」づくりに挑戦している。

竹葉 秀三（たけば しゅうぞう）

竜串観光汽船代表／NPO 法人竜串観光振興会

1952 年高知県土佐清水市生まれ。父親の代から竜串でグラスボート業を営み、今年で 49 年目。豊かだった竜串の海が衰退していくのを目の当たりにし、仲間等とサンゴ保全の活動を開始。後進の育成や地元の環境学習にも関わる。

田村 卓実（たむら たくみ）

一般社団法人あしずり温泉協議会会長／足摺国際ホテル代表取締役

1962 年高知県土佐清水市生まれ。1990 年に父親の経営する旅館に入社し、2008 年に代表取締役社長に就任。それ以降、旅館・ホテル業界や旅行会社関連等の組織団体の要職に就いている。2011 年に足摺温泉組合が一般社団法人を取得し、あしずり温泉協議会を設立。その際、初代会長となり現在に至る。20 数年間の旅館業の経験をもとに、「自然」「体験」「食」をキーワードと考え、他エリアとも連携を取りながら、地域の活性化を図るために様々な取り組みを実施している。

西尾 知照（にしお ともてる）

愛南町立中浦小学校教頭／自然公園指導員

1963 年愛媛県生まれ。愛媛大学教育学部卒業。大学在学中にスキューバダイビングを始め、愛媛県沿岸域のヤドカリを調査する。自然公園指導員として宇和海のビーチクリーンやシュノーケリング教室を長年実施している。今年、「愛南サンゴを守る会」を立ち上げ、鹿島周辺のサンゴを中心に保全活動を展開中。

吉村 博文（よしむら ひろふみ）

土佐清水市副市長

1952 年高知県生まれ。高知県立清水高等学校卒業。1974 年土佐清水市役所に奉職、学校教育課長、議会事務局長、総務課長を経て、2009 年、副市長に就任、現在に至る。土佐清水市は、断崖・絶壁を有する勇壮な足摺岬、奇岩やサンゴが育ち熱帯魚が泳ぐ竜串地区を有する全国でも有数な景勝地である。近年はジンベエザメやマンボウと一緒に泳ぐ「ジンベエスイム」や「マンボウスイム」、また大敷き漁の体験など、人が自然や生きものとふれあう体験型学習や観光に、地元副市長として積極的に取り組んでいる。

進行役

小林 誠（こばやし まこと）

環境省土佐清水自然保護官事務所 自然保護官

1984 年茨城県生まれ。筑波大学大学院生命環境科学研究科修了。2009 年に環境省に入省。本省生物多様性地球戦略企画室、中国四国地方環境事務所、米子自然環境事務所での勤務を経て、2012 年より現職。特技は和太鼓。

足摺宇和海国立公園の紹介

足摺宇和海国立公園（面積：11,345ha）は、高知県と愛媛県の二県にまたがり、四国最南端の足摺岬から愛媛県の宇和海にいたる海岸・島嶼や、篠山、滑床溪谷、法華津峠などの内陸部からなる公園である。



□: 国立公園区域

◇足摺宇和海国立公園の経緯

- ・昭和 30 年（1955）4 月に足摺地域（高知県）を足摺国定公園として指定。
- ・昭和 39 年（1964）3 月に宇和海地域（愛媛県）を編入。
- ・昭和 45 年（1970）5 月に海中公園制度が発足し、7 月に全国第 1 号の海中公園地区指定。
- ・昭和 47 年（1972）11 月に足摺宇和海国立公園として指定（26 番目）。
- ・平成 24 年（2012 年）は指定 40 周年☆

◇地域の概要

高知県の足摺地域は、豪壮な断崖が続く隆起海岸で、足摺岬や竜串など東部には海岸段丘が発達し、西部は叶崎、大堂海岸、柏島などの岬や岩礁帯に恵まれ、変化に富んだ海岸景観を見せる。

植生は黒潮の影響を受け高温多雨の気候がもたらす暖帯となっており、ヤブツバキやビロウ、クワズイモ、リュウビンタイ、アコウなどの亜熱帯植物も足摺岬を中心に見られる。

愛媛県の宇和海地域は、沈降海岸であり、平坦地の少ない優美なリアス式海岸特有の景観を呈する。西方に長く突き出た三浦半島、由良半島、西海海岸などの入り組んだ海岸線と、日振島、御五神島、鹿島などの多数の島々が変化に富んだ景観を形成している。半島や島嶼が外洋に面する南西側海岸には、海食による断崖、洞窟岩礁などがいたるところで見られる。

大きな見所は、海中景観。黒潮の影響でイシサンゴ類などの造礁サンゴが発達し、これらサンゴの間にはソラスズメダイ、チョウチョウウオなどの熱帯魚が遊泳する。足摺地域の竜串、檜西、尻貝、勤崎、沖の島及び宇和海地域の鹿島、横島には、この景観保護のために合計 22 箇所（179.1ha）の海域公園地区が設けられている。

内陸 3 箇所の飛び地も魅力的だ。法華津峠は、絶好の展望地点であり、赤色に染まる法華津湾の夕日が郷愁を誘う。滑床溪谷や成川溪谷は、豊かな森林に包まれた美しい溪谷美を呈しており、登山、溪谷探勝、キャンプなどアウトドアとしても絶好の場所である。篠山では山頂に自生しているアケボノツツジ群落が春にピンク色の花を咲かせ、登山者を楽しませている。



「竜串自然再生」

温暖な黒潮の影響を受け、サンゴや熱帯魚など多くの生きものが生息している竜串湾。全国初の海中公園地区（現：海域公園地区）に指定された場所です。しかし、開発や産業の影響による水質悪化等により、1990年代からサンゴの衰退が目立ちはじめ、2001年の西南豪雨で、大量の泥土が竜串湾に流入したために多くのサンゴが死滅しました。

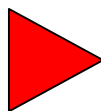
これを受け、失われた自然を取り戻そうと地域の多様な主体が参画した竜串自然再生協議会が2006年に設立され、海域では湾内の泥土除去工事や、サンゴ保全活動、藻場の再生などが、陸域では海に負荷を与えない森・川づくりとして間伐などの森林管理や河川の浚渫工事などが行われています。この他にも、住民学習会や総合学習といった環境教育、広報活動も行われています。これらの取り組みの結果、竜串の海ではサンゴが回復してくるなど再生の兆しが見えてきています。

自然と共生する元気な地域を作るために、これからも取り組みは続いていきます。皆さんも、竜串自然再生に参加してみませんか？

今年度の自然再生協議会は2013年2月7日（木）9：00～12：00 土佐清水市社会福祉センターで行います。ぜひ足を運んでください！皆さんで力を合わせて竜串を豊かな場所にしていきましょう！



衰退したサンゴ群集



みごとに回復したサンゴ群集



「生物多様性」

「生物多様性」とは、すべての生物の間に違いがあることと定義され、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つのレベルでの多様性があるとされています。

「生態系の多様性」とは、森林やサンゴ礁など、様々なタイプの自然があることです。「種の多様性」とは、様々な動物・植物が生息・生育していることです。「遺伝子の多様性」とは、例えばメダカは国内で大きく2つの遺伝的系統があるなど、同じ生きものでも違いがあることです。このように、地域に固有の自然があり、それぞれに特有の生きものが存在し、そして、それらがつながっていることを「生物多様性」といいます。

では、なぜ生物多様性を守ることが重要なのでしょうか。それは、生物多様性が私たち人間の存続の基盤であり、欠くことのできない様々な恵みをもたらすものだからです。第1に「生命が存在する基盤の提供」があります。例えば、森林など植物の光合成による酸素の供給や、蒸散を通じた気候の調節、生きものの死骸の分解による土壌の形成などがあげられます。第2に「有用性の源泉」があります。食べ物や、医薬品、木材、繊維など私たちの生活に必要な物が生きものを利用することによって提供されています。第3に「豊かな文化の根源」があります。郷土料理やお祭り、民謡などはそれぞれの地域に存在する生物多様性が根源となっています。第4に「安全・安心の基盤」があります。森林は、土砂の流出・崩壊を防止し、サンゴ礁のリーフは高波から海岸を守っています。このように、生物多様性は多様な生命の長い歴史の中で形成されてきた、人間を含む地球上の生きものにとってかけがえのないものです。しかし、私たち人間は、この生物多様性を開発などにより急速に、そして大規模に破壊しているのです。

生物多様性は、私たちの生活を支え、歴史や文化を支え、そして地球を支えているかけがえのないものです。もちろん私たちも生物多様性の一部であり、地球上のすべての生きものが様々な関係で繋がりがあ、支え合っています。皆様も、生物多様性の保全について、是非考え、そして行動してみませんか？

